Campus Today

松本歯科大学
発行所　学校法人　松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎（0263）52−3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

困難も前向きに対処し、さらなる飛躍を

松本歯科大学〔歯学部・大学院・衛生学院〕
卒業証書並びに学位記授与式を挙行

2018年度松本歯科大学・松本歯科大学衛生学院の卒業証書並びに学位記授与式が2月7日（木）、本館7階講堂で挙行され、歯学部、衛生学院歯科衛生士学科の卒業生および大学院歯学独立研究科の修了生（博士学位取得者）合わせて122人が式に臨んだ。講堂は荘厳な雰囲気に包まれ、列席したご父母や法人役員、教員らが新たな門出を祝福。卒業生らはそれぞれの思い出を胸に通い慣れた学び舎を巣立った。

一人ずつ登壇し卒業証書・学位記を川原学長から授与される歯学部卒業生

式は校歌斉唱で始まり、校歌『あゝ、渺々の蒼穹に』が講堂内に響き渡った。

黒い角帽とガウンをまとった歯学部卒業生は、中村浩彰教務部長の呼名により一人ずつ登壇し、川原一祐学長から、日本国紋章の五七の桐があしらわれた国立印刷局謹製の卒業証書・学位記を授与された。

晴れやかな笑顔で卒業証書・学位記を手にした歯学部卒業生は、第6学年主任の大須賀直人教授の手により、学位取得の証として角帽のタッセルを右側から左側に移された。壇上のスクリーンには授与式の様子が映写され、列席したご父母らはわが子の堂々とした卒業の姿を見守っていた。

大学院修了生には山田一尋歯学独立研究科長から学位記が、衛生学院卒業生には笠原悦男衛生学院長から卒業証書が手渡された。

挨拶に立った矢ヶ﨑 雅理事長は、江戸時代初期の陽明学者・熊沢蕃山が詠んだ歌〝憂きことの なおこの上に 積もれかし 限りある身の 力試さん〟のことばを読み上げて、「苦労は買ってでもしろという言葉もあります。皆さんの将来には多くの苦労や困難があると思いますが、どれだけあっても前向きに全部受けとめて、なおその上を目指し、自分の持てる力で必ず突破してみせるという気概を持って歩んでください」と激励した。

卒業生を代表しお礼の言葉を述べる千葉君

また、内閣官房参与で本学常務理事・特命教授の飯島 勲氏は「ご父兄の方々におかれましては本当にご苦労だったと思います。その苦労が分かる卒業生の諸君はこれからさらに飛躍され、医療人として『魔法の手』のような高度な技術を身につけるよう努力してください」と祝辞を述べた。

川原学長は「皆さんは医学を通して口腔分野を専門とする健康管理者となり、つまりその立ち位置からは社会の指導者層に属する身分となります。健康の入り口である呼吸と食事に関わるのはすべて口腔顔面領官です。その意味で皆さんは重要な部分を担当します。日進月歩でいろいろな所見が研究発表されていることはご承知のとおりですが、進歩に遅れないようにという姿勢ではなく、進歩をリードしていってもらいたいと願っております」と告辞した。

卒業生代表の千葉大義君は、学生生活を懐かしみながら「さまざまな思い出を作ることができたのも本学で学んだ仲間たちがいたからこそだと思います。勉学や諸活動のために最適な環境を整えてくださった創立者・矢ヶ﨑 康先生、理事長・矢ヶ﨑 雅先生をはじめとする諸先生方や職員の皆さま、私たちを支えてくださったすべての方のお陰であり、そのご高恩は決して忘れません」と謝辞を述べた。そして「住む場所や目指すものは違えども、本学の教育方針を胸に抱き、他人に誇れる仕事ができるよう皆それぞれに前進し、生涯学習を怠らず、信頼される歯科医師となって必ず社会に貢献していきます」とさらなる研鑽を誓った。

名残惜しくも友や恩師と暫しの語らい
歯学部卒業生 大学院修了生 謝恩・祝賀会

午後6時からは、歯学部卒業生、大学院修了生の謝恩・祝賀会が図書会館1階の特設会場において催された。ご父母や法人役員、教員ら合わせて約200人が出席。卒業生の河谷真由花さんの司会進行により、まず卒業生を代表して柏原みゆきさんが開会の挨拶をした。続いて矢ヶ﨑 雅理事長が祝辞を述べた後、川原一祐学長が乾杯の音頭を取り祝宴が始められた。

会場には東京浅草「金太楼鮨」の屋台や本学のフレンチレストラン「雷鳥」、中国料理レストラン「スターダスト」の料理がビュッフェ形式で並び、ご父母や卒業生らはそれぞれに恩師を囲み賑やかに歓談し、カメラを向け合い記念撮影をしていた。

宴たけなわとなったころ、口腔解剖学講座の金銅英二教授が奏でるハモンドオルガンの調べとともに在学生有志による音楽隊が登場。第2学年の長尾将平君と第1学年の青木枝梨香さんが卒業を祝ってトランペットの演奏を披露した。さらに第4学年の小山 惇君が指揮する合唱隊が校歌を3番まで高らかに歌い、会場は大いに盛り上がりを見せた。

修了生を代表して挨拶した原弥革力君は大学院での研究生活を振り返り「難しい実験が成功し新たな発見をしたときの感動は、努力に見合うものであったと確信しています。歯科医師であると同時に科学者でもあるという自覚を持ち、歯科医療の進歩には何が必要であるかを常に考察しながら、今後も基礎研究に取り組み成果を上げられるよう努力していきたい」と、決意を新たにした。

卒業生・修了生たちは恩師や学友、後輩たちと語り合い、名残惜しい時間を過ごした。

別れを惜しみつつさらなる前進を誓う謝恩・祝賀会の参加者たち　（撮影：本学写真部）

名画で楽しむギリシア神話〈23〉
トロイア戦争⑤

ヘクトル亡き後、トロイア軍総帥の座は第二王子パリスに引き継がれた。そもそもこの戦争は、彼がスパルタ王妃ヘレネを略奪したことから始まったのであり、兄の復讐に立ち上がらないわけにはいかない。

一騎打ちを申し込まれたアキレウスは「小せがれが生意気な」とせせら笑って出陣してきた。けれども、パリスには秘策があった。祈りを聞き入れた太陽神アポロから不死身の英雄の唯一の弱点を教えられていたのだ。

手練の弓から放たれた矢は、パリスなんか鎧袖一触だとばかりに仁王立ちとなっていたアキレウスの足首を見事に貫いた（図1）。現代にも「アキレス腱」の名を残す急所に深手を負った嬰将が二度と起き上がることはなかった。「戦場で死ぬ」との予言はここに成就された。

ヘクトル、アキレウスという最強の戦士を失った両軍の戦意はすっかり落ち込んでしまった。トロイア軍は城の内部に立てこもってひたすら防御を固めた。ギリシア軍も10年間攻め続けても有効な打撃を与えられない城壁を前に、すっかりあきらめ顔となり、戦線はまったくの膠着状況となってしまった

ある朝、物見の塔に登ったトロイア兵は自分の目を疑った。一帯の浜辺に展開していたギリシア軍の幕営も、その後ろにもやっていた千艘を超える軍船の群も、きれいさっぱりと姿を消し去っていたのだ。

「敵軍が撤退した」との報に、トロイアの市民たちは欣喜雀躍した。城門を押し開いて浜辺に出てみると、人影はおろか目立った遺留品もなく、水平線の彼方にも帆柱すら見えなかった。ただ一つの例外として、巨大な木馬が置き去りにされていた。

ギリシア軍が撤退の無事を祈っての神への貢ぎ物と判断した人びとは、この木馬を戦利品として城内に運び込むことにした（図2）。王女カサンドラが「これはトロイアに滅亡をもたらす」と押し止めようとしたが、興奮した人びとは彼女の警告を無視した。

美しいカサンドラは、かつて太陽神アポロに「予言の力を与えるから」と誘惑されたが、やがては捨てられる未来を知って、貞操を守った。そこで腹を立てた神から「いったん与えた力は取り消せないが、お前の予言はだれも信じない」と呪われていたのだった。

アポロ神殿の神官ラオコーンも「この木馬は焼き捨てろ」と人びとに命じたが、大蛇が現れて彼とその息子たち二人を絞め殺した（図3）。（つづく）

（笠原　浩）

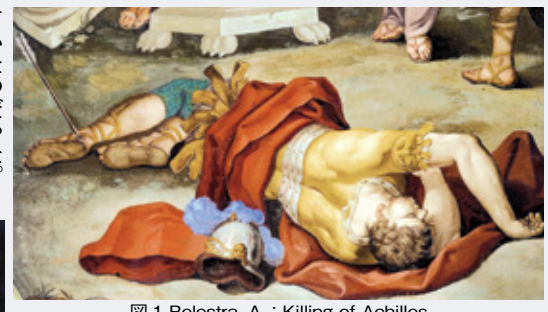


図1 Belestra, A. : Killing of Achilles

図3 Bandinelli：B. Laocoon

図2 Tiepolo,G.D. : The Procession of the Trojan Horse to Toroy

松濤祭 4月 20日の開催決定
「Connecting」をテーマに大学と地域を繋ぐ

松濤祭に向けてミーティングを重ねる実行委員ら

昨年5月に開かれた2018年度体育連絡協議会・文化連絡協議会の合同総会において、大学祭「松濤祭」の実行委員長に第2学年の町野　惇君が選出され、承認された。実行委員会はこのほど、2019年度松濤祭に向けて開催日とテーマを正式決定し、プログラム内容や広報、会場設営の検討など本格的な活動を開始した。

松濤祭は近年、観桜会と同日開催してきたが、第34回大学祭「松濤祭」は4月20日（土）に単独開催する。テーマは『Connecting』。近隣住民の方々と『繋がる（Connect）』ことで大学をPRし、地域社会との絆を深め、ひいては社会貢献に繋げることを目的としている。

町野実行委員長は、「来年度の新入生も気軽に参加できるよう工夫を凝らし、各部活や留学生ならではの特色ある模擬店を計画しています。また、Connectingというテーマには学生、職員の方、OB・OGの先輩らとの連携をこれまで以上に強固にし、協力して大学をいっそう盛り上げていきたいという思いも込められています」と松濤祭にかける思いを語った。

メイン会場は図書会館南側の患者さん専用第2駐車場を予定している。模擬店やイベントを一度に楽しみやすいようコンパクトにまとめ、来場者との間に一体感が生まれることを狙いとした。

このほか松本蟻ヶ崎高等学校の書道パフォーマンスや子どものためのスポーツバイクレース「しおじりチャリフェス」、長野県に縁のある著名人をゲストに迎える特別イベントなど、幅広い世代が楽しめる企画を多数準備している。

32人の臨床研修歯科医が研修成果を発表
臨床研修歯科医症例報告会

2018年度松本歯科大学病院臨床研修プログラムの成果の一部を発表する「臨床研修歯科医維持を目標とする1口腔単位の症例について、各研修歯科医の成果発表を確認し、これからも個々の臨床に生かしてほしい」と挨拶があった。

修管理委員長から「当院が推進している患者さんの健康管理・

続いて研修管理委員会委員の先生方が座長として会は進行し、32人の研修歯科医が指導歯科医の下で行った症例について報告した。その後、研修歯科医

症例報告を行う臨床研修歯科医

相互、参加していただいた多くの指導歯科医からの質疑応答が活発に行われた。症例報告の内容も1口腔単位としての症例が多岐にわたり、全身管理や診療の試行錯誤など成書では記載のない貴重な報告も多く、協力施設研修における内容についても報告があり、盛会となった。この報告内容は、年度末に研修管理委員会編集により「2018年度臨床研修歯科医症例報告集」としてまとめられ、各部門の先生方に配布される予定である。

本症例報告は毎年この時期に行われており、実施前日からは事前抄録も配付しております。学内の先生方や協力型研修施設、協力施設はもちろんのこと、校友の先生方にもご参加いただきますようお願い申し上げます。

（研修管理委員会・プログラム責任者／総合口腔診療部門　教授　音琴淳一）

第4学年 共用試験OSCEを実施
臨床技能を客観的に評価

2月16日（土）、第4学年91人を対象とした共用試験OSCEが、医療間共用試験機構より機構派遣監督者2人、機構派遣視察者1人、外部評価者6人の派遣をいただき、総勢180人の運営スタッフのもと、公正厳格に行われた。

前日には会場設営、評価のすり合せを目的とした模擬OSCE、テストランを行い、試験当日円滑な運営が実施できるようにチェックが行われた。

この試験で学生は臨床実習に参加するための態度・技能・知識の能力が評価される。本学では診療参加型臨床実習を遂行するために、OSCE合格が総括的評価として第5学年への進級条件となっている。受験生は注意事項をよく確認し、真剣な眼差しで受験した。

試験終了後、機構派遣監督者、機構派遣視察者、外部評価者から運営面における指摘事項を受けたが、各課題における受験生は高評価を得られた。

2020年度からは臨床実習終了時にもOSCE形式の試験導入が予定されており、より高密度な診療参加型臨床実習の遂行に向け、いっそうの充実を図る必要がある。

今年度OSCEの実施にあたり、準備段階より多くの教員、病院職員、事務職員の皆様のご協力、ご尽力を賜りましたことを感謝しますとともに、この場を借りまして御礼申し上げます。

（OSCE小委員会委員長／歯科保存学講座　准教授　森　啓）

試験前日に行われたテストランの様子

MTBペダリング随想記

元シドニー五輪日本代表
鈴木 雷太

微笑みの国タイへ冬季合宿に行った。冬のタイは乾季で過ごしやすい。首都バンコク周辺は経済発展が進み、コスト的に日本とあまり変わらなくなってきたが、滞在先のチェンライはまだまだお得感が大きい。遠征コストを抑える術は選手生活に比例して長けてくる。快適さとのバランスが重要なポイントだ。

タイフードは辛いので慣れるまで時間を要するが、辛さのリクエストが自身でできるようになると食べられるモノが一気に増える。早朝のチェンライ市場にはいろいろな食材が並ぶ。肉売り場には各部位や内臓、魚売り場には淡水魚を中心にナマズや手長エビ、カエルなど。今回一番の驚きはネズミだ。キャベツ畑にいて「美味しい」らしいが食べる勇気はなかった。

肉は冷蔵ケースではなくドンっとテーブルの上にあるのが一般的だ。魚も一部氷の上に載っているがそれも朝だけで、昼にはすべてプールの中と言ってよい。最初は不衛生だと思ったが、基本的に一日の販売分のみ並べているようで、夕方には綺麗に売り切れてなくなっている。

タイの良いところは美味しいフルーツが簡単に手に入れられることだ。ビタミンも採れるし、水分が多いので体内滞留時間が少なく体が軽く感じられる。

日本は何でも揃う裕福な国と思っていたが、食材など輸入品が多く、本当の意味での豊かさではないだろうということを滞在中に思った。タイには10回以上訪れているが、タイを含めてまだまだアジアは奥が深く、行くたびに面白い発見がある。

松本歯科大学市民公開講座

八上公利教授と平賀 徹教授が講演
全４回参加の聴講者17人に修了証授与

２０１８年度の松本歯科大学市民公開講座は「患者様の疑問に答える」をメインテーマに1月12日（土）より4週連続で開催され、第3回目の1月26日（土）は病院連携型口腔診療部門の八上公利教授が「なぜインプラントは骨とくっつくの?」と題して、最終回の2月2日（土）は口腔解剖学講座の平賀 徹教授が「なぜ入れ歯はしばらくたつと合わなくなるの?」と題して講演。４回すべてに参加した17人の聴講者に、川原一祐学長から修了証と記念品が手渡された。

公開講座の修了証を手にした聴講者の皆さん

八上教授は、歯を喪失したときに金属のスクリューを人工歯根として、それを支えに歯の機能を回復させるインプラント治療法について、進歩の変遷やその特性、治療の流れなどを概説した。インプラントは義歯と比較して、硬いものが自分の歯のように食べられ、外れることがない。ただし外科的手術が必要で埋入後の不安定な時期を含めて治療期間が長くかかり、一部を除いて保険適用外である。「手術の成功率は１００％ではないが確立された治療方法です。高度管理医療機器として国が厳しい基準を設けて、安全性を高めています」との見解を示した。

またインプラントに使われているチタンの性質や、インプラントと骨が結合するオステオインテグレーションについても分かりやすく説明。インプラントを維持するためにメインテナンスを怠らないことも重要と話し、「噛む力や他の歯とのバランス、歯周病など、本院ではインプラント治療を取り巻く各分野の専門家がチームとして一口腔単位で治療に取り組んでいます」と強調した。

平賀教授は、入れ歯が合わなくなる原因として、①歯科医師の技術、②入れ歯の取り扱い、③身体の変化を挙げた。入れ歯の無理な出し入れや乾燥、熱湯消毒など患者の誤った取り扱いによって、入れ歯が変形してしまうことを指摘し、身体の変化については、歯の喪失に伴う周囲の歯の移動や挺出、無刺激に伴う骨量減少のメカニズム、加齢による唾液の減少および口腔粘膜の菲薄化などを丁寧に説明した。

講演する八上教授（上）と平賀教授

唾液は歯肉と入れ歯の接着剤として重要な役割を果たしているが、加齢によって唾液腺の萎縮や全身疾患、ストレス、筋力の低下などによって分泌が減少する。また口腔粘膜が薄くなることと唾液の減少があいまって傷がつきやすく、治りにくくなる。さらに、合わない入れ歯によって傷がつき治りにくくなることが「合わない」と感じる理由のひとつになることもある。平賀教授は「入れ歯は一生モノではありません。うまく付き合い、苦しまないために、定期的に歯科医院を受診しましょう」と呼びかけた。

同講座には延べ１１９人が参加して17人に修了証と記念品が授与された。司会進行を務めた本学産学官連携推進室の酘島弘之室長は、「毎回多くの質問や疑問をお寄せいただき、熱心に聴講してくださったことを嬉しく思います」と感謝の意を表した。

豚顎を用いて切開・縫合などの外科手技を学ぶ
第５学年歯周外科実習

２月12日（火）、実習館１０１実習室にて第５学年生68人、および臨床研修歯科医の希望者10人を対象に、豚顎を用いた歯周外科実習が開催された。

本実習は、歯科保存学講座・吉成伸夫教授が赴任した12年前より毎年臨床実習終了直後の第５学年生を対象に行うもので、卒前教育カリキュラムで診療参加型実習をさらに充実させるために導入されたものである。第５学年生にとって歯周外科手術は、臨床実習中に見学や介助を行うが、実際に自分で切開、縫合するのはこれが初めての経験となる。

豚顎は歯周組織の構造がヒトに似ており、外科手技を学ぶのに大きさがちょうど良く、卒後研修コースや大学の実習セミナー等では多用されているものであるが、本学のように卒前の学生を対象に教育に導入している大学はわずかである。

実習内容は切開、歯肉弁（全層、部分層、複合）の形成、各種縫合（単純、マットレス）、臼歯部におけるウエッジ手術、フラップ手術を行い、器材の使用法から切開し縫合まで一連の流れを実際に体験して、理解を深める内容である。臨床研修歯科医師にはアドバンスコースとして、石原裕一教授が歯周形成外科手術を中心に指導した。

実習は少人数班にインストラクター1人がつき、細かく丁寧に指導できるよう配慮しており、実習中は学生からも意欲的に質問が飛び交い、熱心に取り組んでいる姿勢が伺えた。

毎年実習後のアンケートでは、「切開や縫合は実際にやってみないと分からないので良かった」との意見が多い。臨床実習を通じて歯周基本治療から歯周外科治療までの流れを理解し、その必要性や可能性を理解した上で、豚顎実習に取り組むことでより一層の興味が湧いているものと思われる。

さらに、歯周病領域における国家試験臨床実地問題のほとんどが歯周外科からの出題であり、臨床実習の最後に行うことは国家試験の勉強に入る学生たちにとって理解の向上にもつながる。最後に経費も人的資源もかかる本実習を毎年認めていただいている学年主任、教務部長、歯学部長に感謝いたします。

（歯科保存学講座　助手　佐故竜介）

外科手技を指導する吉成教授

病院だより vol.8

シリーズ期待のホープ②

健診センター　臨床検査技師
岩波　理沙さん

今年度、東京都大田区にある牧田総合病院を寿退職して、本院健診センターに入職した岩波理沙さん。趣味は旅行で、年齢以上に落ち着いた雰囲気と素敵な笑顔で、受診者さんや患者さんの対応を行っています。そんな岩波さんに、今回は質問に答えてもらいました。

Q1　現在の業務内容について教えてください。

A1　午前は健診センターでの計測や生理検査業務を行い、午後は受診者さんの結果整理や翌日のオーダー入力、採血準備、外来での超音波検査、データ確認や結果入力、２次検査の返信書処理など、同じ健診センターの臨床検査技師・小野美華さんや中西裕美香さん、藤森豊子さんと協力しながら行っています。

Q2　超音波検査も担当されているようですが、健診での超音波検査のことをもう少し詳しく説明してください。

A2　超音波検査は痛みを伴わず、被爆もなく行える検査です。当院健診では、脳ドックなどで行う頸動脈超音波検査の他に、膵臓、胆嚢、肝臓、脾臓、腎臓、大動脈の超音波検査を行い、形状や病変の有無をスクリーニングしています。

臨床検査技師の岩波さん

Q3　今まで医科や健診センターでの業務に携わり、印象に残っていること、または感じていることはありますか?

A3　病気の早期発見により、その後の患者さんの負担が軽く済むことが多くあり、健診や人間ドックの大切さを感じてきました。

超音波検査では他の画像診断検査に比べ、比較的小さな病変から発見が可能です。また、繰り返し受けることで、以前との画像比較により、小さな変化も見つけることができます。

Q4　お得な情報があれば教えてください。

A4　職員は人間ドックを受ける際、私学共済と本学の補助が出ますので、割引価格で受けられます。ぜひ普段の職員健診にプラスしてみて下さい。お待ちしております!

皆さん、健診を受けられる際に素敵な笑顔を探してみてください。

お問い合わせは、地域医療連携室（☎０２６３-51-２３０５　FAX０２６３-51-２３３３）まで。

第４学年 共用試験ＣＢＴ
臨床実習前の基本的能力に関する知識を評価

２０１８年度の共用試験ＣＢＴ（Computer Based Testing）本試験が、1月31日（木）にキャンパスイン１０１教室において実施され、第４学年生92人が受験した。

共用試験は、歯科医師の資格がない学生が、臨床実習において患者に接して医療行為を行うための能力と適性を有するかどうかを臨床実習開始前に評価するためのものとして導入された試験で、ＣＢＴとＯＳＣＥ（Objective Structured Clinical Examination）の２つの試験がある。このうちＣＢＴは、コンピューターを用いて知識の総合的理解力が評価される。

試験は６ブロック（各ブロック1時間）から構成され、単純５肢択一問題、多選択肢２連問、順次解答２連問、順次解答４連問という形式の異なる問題が合計３２０問出題される。学生は長時間にわたる試験を緊張の中、真剣に取り組んでいた。

学生・スタッフの協力のおかげで、試験は滞りなく終了することができた。また、社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構から派遣された２人の外部監督者の先生からは、学生の受験態度についてお褒めの言葉もいただいた。

試験結果については、これまで使用されてきた正解率に加えて、今年度からは項目反応理論（ＩＲＴ）に基づいた問題ごとの難易度を反映した数値を併用して評価を行うこととなり、今まで以上に正確な知識が要求されている。本試験の成績は進級判定等に用いられることから、より高いレベルでの卒前臨床実習の実施につながることが期待される。

（ＣＢＴ小委員会委員長／口腔解剖学講座　教授　平賀　徹）

試験会場に入室する第４学年生

学業成績・学術文化活動等を称えて
卒業生25名が栄誉に輝く笑顔の受賞

２０１８年度松本歯科大学卒業証書並びに学位記授与式において、歯学部卒業生の学業成績優秀者に矢ヶ﨑 康特別賞（1名）、矢ヶ﨑 康賞（3名）、奨励賞（6名）、また学術文化活動等で顕著な活躍をした者に活動賞（6名）が贈られ、また皆勤賞（8名）と精勤賞（9名）が、それぞれに贈られた。

前列左から 盧 良全（矢ヶ﨑 康賞・活動賞）、千葉大義（矢ヶ﨑 康特別賞・活動賞・精勤賞）、島田裟彩（矢ヶ﨑 康賞・活動賞・精勤賞）、松浦成也（矢ヶ﨑 康賞・精勤賞）、
後列左から 石川 泰（奨励賞）、渡辺 茜（奨励賞）、西山奈緒子（奨励賞）、田村沙弥子（奨励賞）、宮下佑基（奨励賞）、駒村 牧（奨励賞） 敬称略

前列左から 餅原芳文（活動賞・皆勤賞）、柏原みゆき（活動賞）、小山 佑（活動賞・精勤賞）、新井 諒（皆勤賞）、有瀧航太（皆勤賞）、上田愛佳（皆勤賞）、小山知哉（皆勤賞）、
後列左から 佐々木 愛（皆勤賞）、福山裕望（皆勤賞）、今井健介（精勤賞）、羽鳥 遼（精勤賞）、廣 芽生（精勤賞）、藤髙若菜（精勤賞）、宮脇史佳（精勤賞）、劉 書銘（皆勤賞） 敬称略

院内感染対策委員会・芳澤享子委員長が
「ICTによる院内ラウンド結果」を報告
病院医療安全講習会

２月18日（月）、２０１８年度第２回医療安全講習会を開催し、前半は、日本光電株式会社安全管理部の秋村裕彦様を講師にお招きし、モニタに係わる医療事故防止のための安全管理についてお話しいただいた。

モニタに関連した医療事故事例をご紹介いただき、アラームの適切な使用と評価の仕方について、また、心電図モニタとパルスオキシメータを使用する際の注意点について大変分かりやすくご講演いただいた。

後半は、院内感染防止対策委員会委員長の芳澤享子教授による院内感染防止対策の講演が行われた。

抗菌薬使用に関して、本院では第３世代セフェム系抗菌薬の使用割合が高く、薬剤耐性対策の観点からも抗菌薬の選択につき見直す必要がある旨の提言があった。また、ＩＣＴによる病棟と連携型口腔診療部門外来での院内ラウンド結果が紹介され、改善の必要な個所が非常に多くみられたことが報告された。

院内ラウンド結果を報告する芳澤教授

病院職員の皆さんには、日ごろから医療安全対策にご尽力いただいておりますが、他の医療機関に比べて本院でのヒヤリハット報告は少ない状況が続いています。ヒヤリハット報告は、決して個人の責任を追及するためのものではなく、全ての職員で情報を共有し、医療事故を防止するための大変貴重な資料となります。ぜひ積極的にヒヤリハット報告を提出していただきますようお願い申し上げます。

（医療安全管理委員会 委員長 澁谷 徹）

人事異動

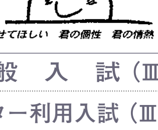
【退職】
- 鈴木 桜花（診療助手（常勤職員））12月31日付
- 落合 隆永（講師（歯学部口腔病理学講座））1月31日付
- 小松 智子（臨床検査室臨床検査技師（パートタイマー））

【契約満了】
- 根橋 寛実（事務局大学病院事務室事務員（派遣職員））1月31日付
- 甕 智子（事務局大学病院事務室事務員（派遣職員））

【配置換・兼務】
- 横井由紀子（講師（歯学部歯科補綴学講座）大学院歯学独立研究科健康増進口腔科学講座兼務）2月1日付

3月行事予定

- 3日(日) 第28回歯科衛生士国家試験（名古屋）
- 5日(火) 衛生学院一般入試（Ⅲ期）
- 6日(水) 衛生学院一般入試（Ⅲ期） 合格者発表
  大学院入学者選抜試験（Ⅱ期）
- 6日(水)～8日(金) 後期定期試験（衛生学院第２学年）
- 13日(水) 一般入試（Ⅲ期）
  特待生選考試験（Ⅲ期）
- 15日(金) 一般入試（Ⅲ期）
  センター利用入試（Ⅲ期）
  特待生選考試（Ⅲ期）
  大学院入学者選抜試験（Ⅱ期）
  合格者発表
- 18日(月) 第112回歯科医師国家試験
  合格者発表
- 26日(火) 第28回歯科衛生士国家試験
  合格者発表
- 27日(水) 大学院発表会

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱
一般入試（Ⅲ期）
※センター利用入試（Ⅲ期）
特待生選考試験（Ⅲ期）
●試験日
3月13日(水)
※センター利用入試の、本学個別試験はありません。
●出願期間
2月21日(木)～3月8日(金)
●試験場
本学・東京・大阪
■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp

Alumni News
松本歯科大学校友会

沖縄県支部

19期生・大槻征久先生を招き学術講演会
「障がい者歯科と多職種連携について」

沖縄県支部学術講演会・忘年会が、昨年の12月８日（土）、那覇市のホテルサン沖縄にて開催されました。

講師に東京都府中市で開業されている大槻征久先生（19期生）をお迎えして「障がい者歯科と多職種連携について」と題して講演していただきました。

大槻先生は歯科医師であり、社会福祉士の資格も持っていらっしゃる観点から、現在の障がい者歯科治療に対する個人の取り組み方や、組織としての地域と連携しての取り組み方をいろいろ例を挙げてお話しくださいました。

そのなかで、障がい者に必要な権利擁護の意味合いが時代とともに変わってきていること、つまり以前の障がい者の歯科治療において本人との意思疎通が困難な場合、家族の了解のもとでの身体拘束下での治療が普通でしたが、最近では障がい者本人に自分の権利の行使者としての力を発揮できるよう支援していく形で、欠点に注目するのではなくその潜在能力や環境、利用者のストレングス（強さ・強み）に耳を傾け、それを生かした支援をすることが大事であると話されました。

講師の大槻先生（前列右から２人目）を囲む沖縄県支部会員

特に印象的な言葉に愚行権の尊重という言葉があり、障がい者本人が愚かな決定をなすことも認められること（愚かな決定をしたからと言って決定する能力がないとみなしてはならない）が必要であるというのがあり、これは歯科治療を嫌がる障がい者に対して、術者であるわれわれが当たり前のように歯を治療してやっているんだ、患者は何も考えないで嫌がっているんだ等と言う思いあがった気持ちではいけないという、いましめのような思いを改めて感じた言葉でした。

講演後は忘年会となり、恒例のビンゴ大会で大いに盛り上がりました。大槻先生も講演時はかなり緊張されて居ましたが、この頃にはお酒も入りリラックスしていただき、その後の２次会でもさらに楽しんでいただきました。大槻先生本当にありがとうございました。

（沖縄県支部 10期生 長田紀雄）

研究所セミナー

“ネイチャー”誌に掲載された東京大学医学部と本学との共同研究
「破骨細胞由来の膜小胞型RANKによる骨形成を促進するリバースシグナルの発見」

11月16日（金）、東京大学医学部附属病院薬剤部講師の本間雅先生をお迎えし、総合歯科医学研究所セミナーが開催された。

破骨細胞形成抑制因子OPG 破骨細胞分化因子RANKL およびその受容体RANKの発見から今日まで骨破壊のメカニズム解明が飛躍的に進んだ。その後、完全ヒト型RANKL中和抗体（denosumab）が開発され、骨粗鬆症、関節リウマチおよび癌の骨転移による骨病変の治療薬として日欧米はじめ多くの国で臨床応用されている。

骨芽細胞に発現するRANKLは破骨細胞前駆細胞であるマクロファージ系の細胞に発現するRANKに結合し、破骨細胞性の骨吸収を促進する。一方、骨芽細胞に発現するRANKLが破骨細胞分化のみならず、RANKLリバースシグナル（逆信号）として骨芽細胞自らによる骨形成に関与する可能性が最近提唱されている。

今回お招きした本間先生らは、RANKLの細胞内発現挙動について研究を行ってきた結果、骨芽細胞内でのRANKLリバースシグナルの存在を証明した。破骨細胞は成熟過程において、RANKを表面に発現するエクソソーム（細胞膜小胞）を分泌し、これらの破骨細胞由来RANKエクソソームは骨芽細胞内のRANKLに結合する。RANK-RANKLリバースシグナルはその後、骨芽細胞において、PI3K-Akt-mTORC1経路を活性化することにより、骨芽細胞活性を上昇させ骨形成を促進する可能性が考えられた。破骨細胞による骨の吸収と骨芽細胞による骨の形成は絶え間なく繰り返されている。この骨吸収と骨形成のカップリングにより、力学的なストレスに耐えられる弾力性を有する新しい骨組織が形成される。今回の実験結果は、骨カップリング制御機構を説明するための重要な発見となった。

本研究は、本学の宇田川信之教授（口腔生化学講座）との共同研究であり、世界的学術雑誌であるネイチャー（Nature）誌９月13日号に掲載され、大きな反響を呼んでいる。

（総合歯科医学研究所長 特任教授 高橋直之）

セミナーにお迎えした本間先生

Economic News
内外の経済　2月27日付

▶株価

日本↗	21,527.90円
米国↘	26,057.98ドル

▶金地金店頭価格（消費税込み）

売り（１グラム）	5,132円
買い（１グラム）	5,046円

▶白金地金店頭価格（消費税込み）

売り（１グラム）	3,398円
買い（１グラム）	3,270円

東京外国為替相場と各国定期預金金利（3カ月物）

米ドル	111.60円	0.20%
英ポンド	147.60円	0.10%
スイスフラン	111.61円	0.01%
ユーロ	126.98円	0.01%
タイバーツ	3.61円	0.10%
日本円	——	0.01%

（SMBC信託銀行ＨＰ等より）